

わかってきたかな？ とっとりのタンポポの正体！

タンポポ調査・西日本2010 in 鳥取

西日本のタンポポの種類まとめ

		総苞外片	
		上向き	下向き
花	均一	在来 2倍体種	
	バラバラ	在来 倍数体種	外来種と その雑種

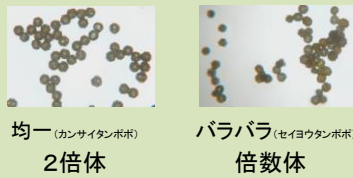
タンポポの種類を決めるには、総苞外片の記録と、花粉の顕微鏡での観察が必要。

今回の調査では、総苞外片があまり反り返らないものについて、博物館で花粉をチェック。さらに形をよく調べて種類を判定。

総苞外片の向き



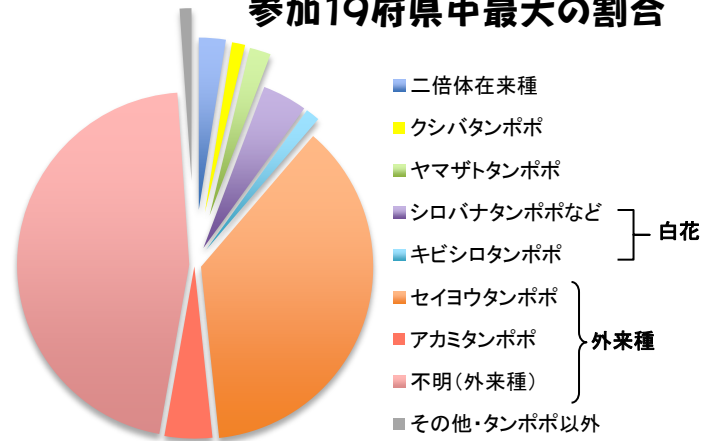
花粉の形と大きさ



2倍体は花粉を用いた有性生殖により種子ができる。倍数体は昆虫が花粉を運ばなくても種子ができる。

圧倒的に外来種が多い！

参加19府県中最大の割合



集まった全2263サンプルの内訳

もともと鳥取県にはタンポポがあまり生育していなかったのでは？
そこに、外来種が侵入してきている？

在来2倍体種

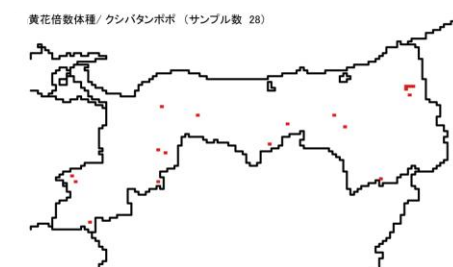
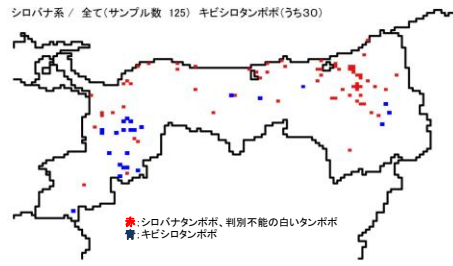
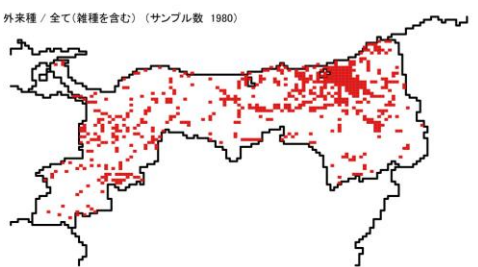
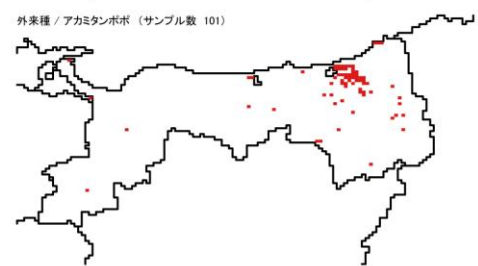
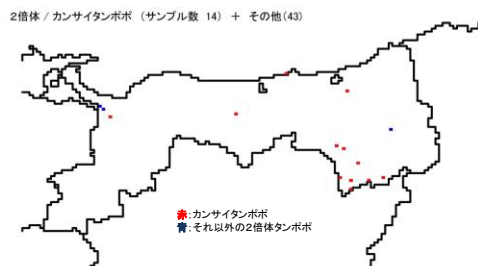
●関西地方や岡山県、兵庫県(但馬を除く)などで普通に見られる**カンサイタンポポ**は、鳥取市、倉吉市、米子市でごく希に見つかったが、智頭町では各地に見られた。

鳥取市などの街中で見られたカンサイタンポポは、土などが運ばれたときに一緒に付いてきたものか。一方、智頭町から用瀬町にかけてのカンサイタンポポは、他県から中国山地を越えて入ってきたものが点々と確認されたとも考えられる。

外来種とその雑種

●**セイヨウタンポポ**は県内各地で確認された。セイヨウタンポポよりも市街地に多いと言われている瘦果(たね)が赤い**アカミタンポポ**は、鳥取市市街地で広く見られたが、山間部でも局所的に見られることがあった。

外来種としたサンプルの中には、総苞外片がほとんど反り返らないものや、花粉ができにくいもの、頭花がやたら大きくなるもの、小さくなるものなども含まれる。これらは在来種との雑種と考えられる。



在来倍数体種

●**白花系**：鳥取市を中心に、開けたところでは**シロバナタンポポ**が広くみられた。「探してみたら意外にシロバナが多かった」という感想がみられた。

●岡山県原産の**キビシロタンポポ**は、シロバナタンポポよりやや小さく、総苞外片がめくれず赤みを帯び、角状突起が小さく、種子が黒っぽいことなどで区別できる。キビシロタンポポと思われるものは、岡山県の分布域に隣接する日野町、伯耆町、南部町にまとまってみられたが、県中部、東部にも少し疑わしいものがあった。

●**黄花系**：**ヤマザトタンポポ**(ケンサキタンポポとされるものを含む)、**クシバタンポポ**とも、県内全域の山間部の集落(山里)などで点々と確認された。クシバタンポポは、ヤマザトタンポポより標高の高い奥地に見られる。

●総苞外片が上向きで花粉がバラバラの黄色いタンポポの中に、ヤマザトタンポポ、ケンサキタンポポ、クシバタンポポのどれにもあてはまらないものが多数見られた。これらは、セイヨウタンポポと一緒に生育していることが多く、外来種と総苞外片がよく似ているので、外来種と在来種の雑種と判断し、外来種に含めている。

主な調査参加団体

このほかにも多くの団体に参加いただきましたが、調査事務局が把握している団体に限らせていただきました。下記の団体中には、団体としての正式な参加ではなく、調査参加者の所属団体も含まれています。

- 自然観察指導員鳥取連絡会
- 鳥取大学地域学部
- 鳥取環境大学
- 鳥取県立米子白鳳高校
- 鳥根県立大社高校

- 鳥取市立国府中学校
- 鳥取市立北中学校
- 琴浦町立赤崎中学校
- 三朝町立三朝中学校
- 鳥取市立末恒小学校
- 鳥取市立久松小学校
- 鳥取市立日進小学校
- 三朝町立東小学校
- 米子市立彦名小学校
- 伯耆町立岸本小学校
- 伯耆町立八郷小学校

- 森林公園とっとり出会いの森(財)中海水鳥国際交流基金
- 鳥取県立大山自然歴史館
- 氷ノ山自然ふれあい館
- 倉敷市立自然史博物館
- 岡山県自然保護センター
- 兵庫県立人と自然の博物館
- 開明中学校

予告

西日本19府県全体の成果をまとめた、「**タンポポ調査・西日本2010**」調査報告会

日時：2011年3月5日(土)
午後1時30分～午後4時

場所：大阪市立大学文化交流センター
(大阪駅前第2ビル6階研修室)